

## ～物質がもたらす脳の変化と病的な渴望～

そもそも依存症が特別の病気として扱われてきた理由のひとつは、物質が有する化学的作用が脳に変化を及ぼすという事実です。依存症では、長年の物質使用で主に脳の報酬系と呼ばれる経路が変化し、物質の使用がコントロールできなくなっていくます。脳の変化は、病的な渴望をもたらします。依存症の渴望を表す言葉に、「ホワイトナックル」という言葉があります。<sup>1)</sup>拳が真っ白になるほど握りしめて飲酒欲求に耐えるさまを言い表したものです。すなわち、**依存症の人の意志が弱いのではなく、渴望が病的に強く、抵抗することが難しい**のです。

### 《参考文献》

1. 葛西賢太 著,断酒が作り出す共同性—アルコール依存症からの回復を信じる人々.

